

母性看護学・助産学教室

所在地 : 医学部5号館314号室
 (本郷キャンパス龍岡門入って左手)
 Tel & Fax: 03-5841-3396
 E-Mail : bosei-office@umin.ac.jp
 http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/midwifery/

母性看護学・助産学とは？

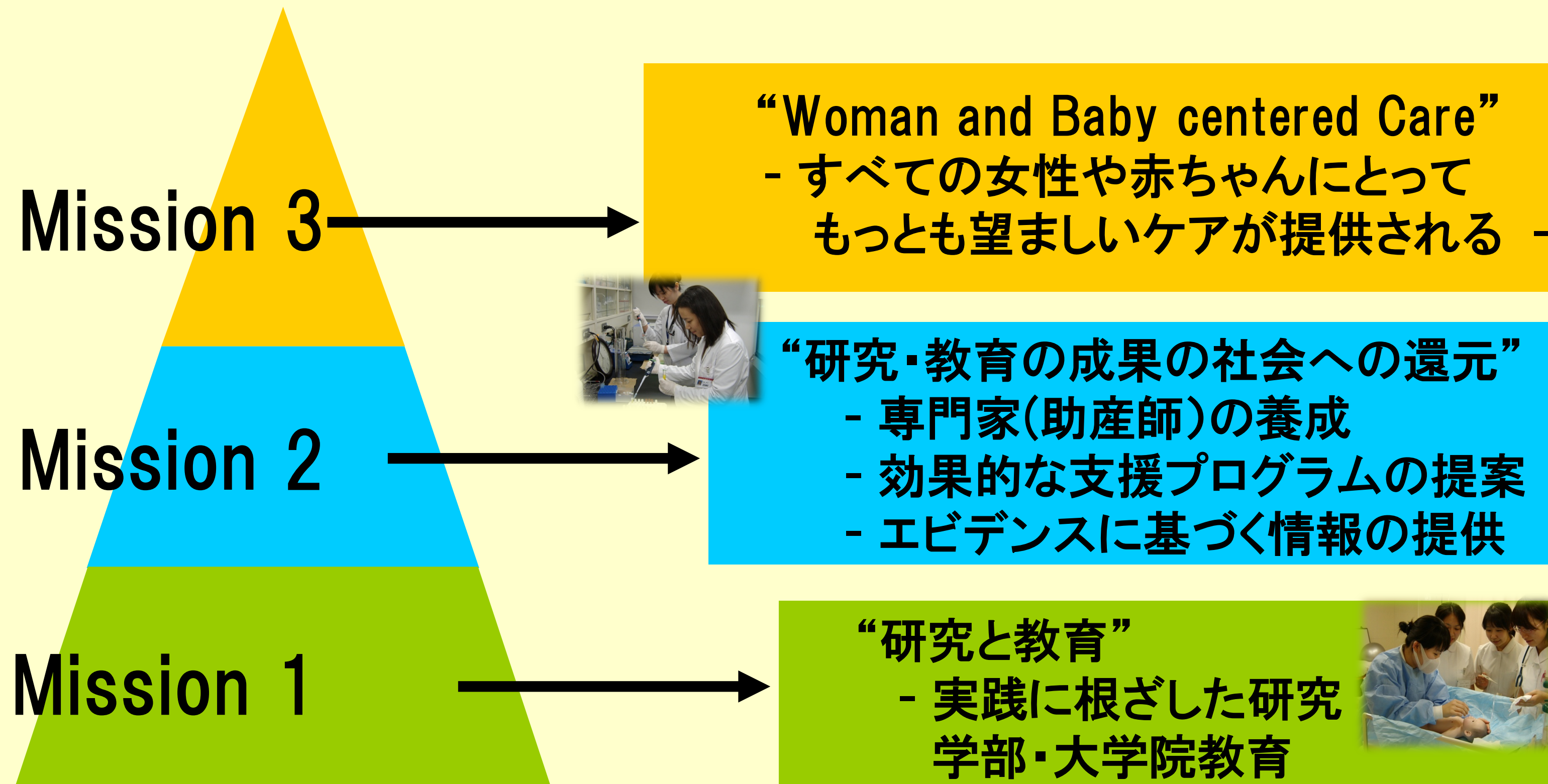
- ◆ 妊産褥婦および新生児への看護活動に加え、女性の生涯を通じた健康を支援する専門領域です。
- ◆ 女性の「性と生殖に関する健康と権利」を尊重した看護を実践できる人材の育成を目標としています。



◆ 看護師国家試験の受験資格に必要な「母性看護学」を学べます。
 (3年生で講義2単位、4年生で実習2単位)

平成26年度より大学院修士課程での助産師教育コースがスタートしました。
 ※平成28年3月、大学院より初めて助産師3名が卒業する予定です。

母性看護学・助産学分野がめざすもの



卒業後の進路

| | |
|------------------------|--|
| 学部卒業生 | 東京大学附属病院(助産師、看護師) |
| | 愛育病院(助産師) |
| | 東京北医療センター(助産師) 長崎大学(助教) |
| 修士課程 卒業生 (助産コース) | 賛育会病院(助産師) 葛飾赤十字産院(助産師) 博士課程進学 |
| | 東京大学 / 健康科学・看護学専攻(講師、助教、特任助教) 聖路加大学 / 国際看護学(教授) 大阪大学 / 保健学専攻(准教授) 国立成育医療研究センター研究所(成育疫学研究室長) 上智大学(助教) 長崎大学熱帯医学研究所(助教) 助産院開業、東大客員研究員 |



平成27年度卒業論文テーマ

本年度は看護コースの2名が卒業論文を提出・発表しました。

日本人女性の妊娠中期・後期におけるつわりの有病率と関連要因に関する研究

妊娠期のつわりは妊娠初期で軽快することも多いが、妊娠中期・後期になってもなお、症状に悩む妊婦もいる。その実態について明らかし、妊娠中期・後期でのつわりに関連する要因についても検討した。2015年3月に千葉で開催される国際学会で、英語での口頭発表にもチャレンジする予定。

文京区在住の既婚者における理想の子ども数より予定の子ども数が少ない要因に関する研究

現代の男女は、子供を持ちたくても、様々な原因で希望する人数の子供は持てないことも多い。文京区内に住む男女に対して、「理想の子ども数」と、「実際持つであろう子ども数」のギャップに着目し、研究を行った。

【2016年度教室員】

| | |
|-----------|---------------------|
| 准教授 春名めぐみ | 特任助教 米澤かおり |
| 講師 松崎政代 | 大学院生 13名(博士8名 修士6名) |
| 助教 笹川恵美 | 事務員 1名 |

教室の研究

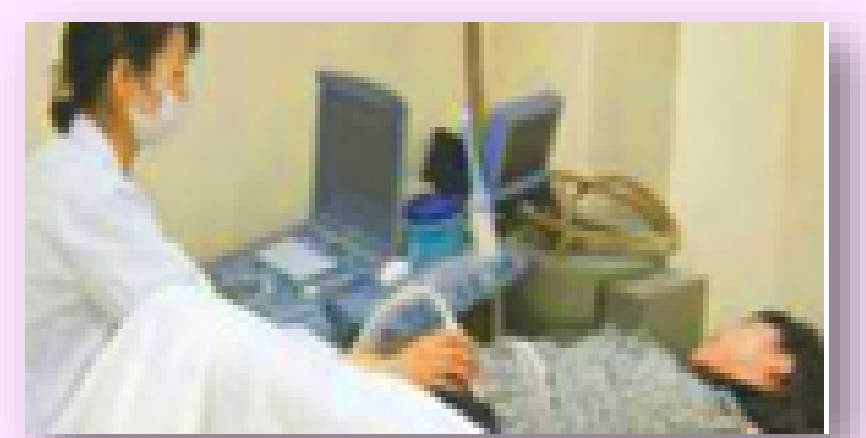
◆Step1: ニーズ・実態調査

- 妊娠中・産後の栄養摂取に関する研究
- 産後の骨盤底筋機能障害の実態調査
- パートナーからの暴力(IPV)被害妊婦の実態調査
- 妊娠中・産後の母親の睡眠に関する実態調査
- モンゴルにおける妊婦の受動喫煙の調査
- エルサルバドルにおける妊産婦死亡に関する実態調査



◆Step2: 新たなエビデンスの創出

- 妊娠期の効果的な栄養指導方法の開発
- 妊娠期～産後女性のインナーユニットと尿失禁に関する研究
- 妊娠期の骨盤底筋群と分娩との関連の調査
- 妊娠中のヨガの下肢循環動態への影響の調査
- 分娩直後の女性の尿貯留量の超音波装置による測定精度の研究

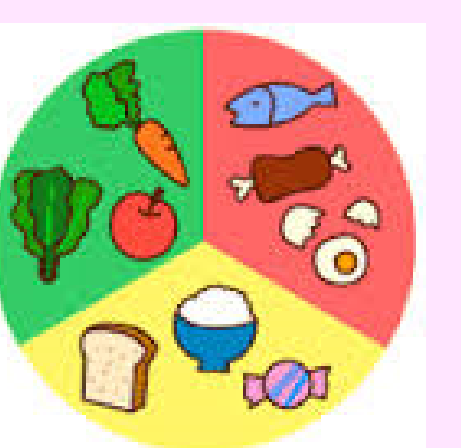


◆Step3: 新しいケアプログラムの効果検証

- 妊娠中のヨガのストレス緩和効果の検証
- 栄養アセスメントに基づく妊婦の栄養指導効果の検証
- 産後の女性の腹圧性尿失禁に対する運動プログラムの効果検証
- 新生児・乳児の保湿ケアの効果検証

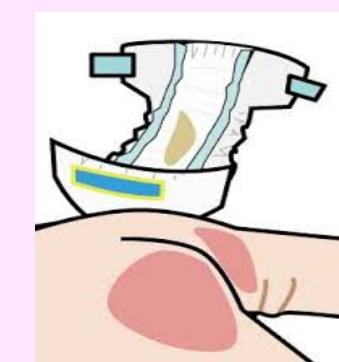
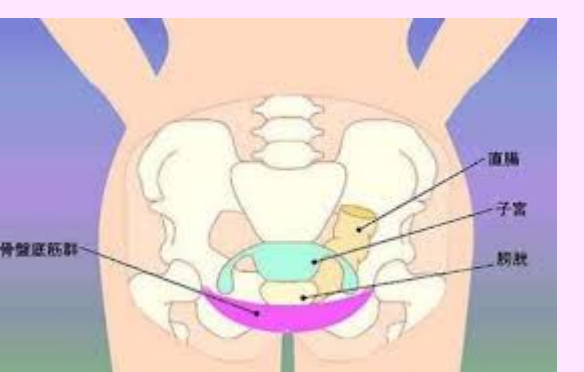
大学院生の研究

妊娠中から産後の妊婦の栄養指導介入についてランダム化比較対照試験による効果検証を行っている。食事歴法による栄養アセスメントに基づいた栄養指導の臨床への活用を目指している。



妊娠中のパートナーからの暴力(Intimate Partner Violence: IPV)被害率は5~31%と報告されている。IPV被害妊婦の心理状態と周囲の友人・家族・ケア提供者による二次被害の現状とその影響について研究を行っている。

尿失禁・便秘は、心理・社会的QOLの低下に直結する問題である。出産の影響による尿失禁を予防・改善し、骨盤底筋群の強化につながる運動プログラムの効果検証を行っている。



乳児期の皮膚バリア機能を改善する保湿ケアに着目し、沐浴回数や乳液の使用も含めたケアの効果を検証している。乳児期に多い肌トラブルの予防・改善に効果的なケア方法を考案している。

妊娠期のヨガ実施の効果は十分に明らかにされていないものの、多くの施設で実施されている。日本人妊婦を対象にヨガを実施し、妊娠期の精神的健康度、身体症状、分娩への効果を検証している。



モンゴルでは高い喫煙率の問題があり、妊婦の受動喫煙のおそれがある。そこで、受動喫煙の状況を調べ、母児への影響について調査を行っている。

妊娠中や産後は、女性にとって睡眠に関する問題が起きやすい時期である。妊娠中の睡眠を睡眠計を用いて測定したり、乳児をかかえながら働く女性に睡眠状況を質問紙で尋ね、その心身への影響について検討している。

